

令和2年度摂津市立味舌小学校第2回学校協議会 要点録

令和3年2月9日(火)19:00~20:30

於:味舌小学校校南棟1階学習室

記録:平野 憲昭(事務局:本校教頭)

出席委員:榎谷佳純、以登田毅、前田文雄、門野さとみ、竹内千恵子

欠席委員:中居正一、高森佳代子、小澤香織、角田幸代、河合隆之 (敬称略)

学校出席者:校長 奥野宏一、教頭 平野憲昭、児童生徒支援加配 大南圭司

1. 校長より挨拶

(校長) 第2回学校協議会を12月に設定していたが、新型コロナウイルス拡大の影響から延期とさせていただき、この度最終回となりますが、開催することができた。このまま開催できないことも想定して、失礼ながら資料と合わせて評価表も同封させていただいた。ご協力に感謝申し上げます。いただいた評価表をとりまとめ、今後の学校経営に生かしていく。

本日は感染拡大防止対策として、窓を開けて換気を行い、パーテーションを利用して行う。皆様から多くのご意見をいただきたいと考えている。

昨年度2月に緊急事態宣言が発令され、早いもので1年が経過しようとしている。その間、学校では、分散登校からはじまり、段階的に通常登校へ戻ってきた。臨時休校中も学びを継続させるために、家庭学習の充実に力を注いだ。「ましたっこラーニング」という動画サイトを立ち上げ、本校教員が家庭学習を支援する学習動画を作成した。本校は、市内小学校と比べて多くの動画を準備した。

登校に当たっては、健康観察カードを各家庭で記入してもらい、健康状態を確認している。昨年度より液体石鹸を導入していたこともあり、手洗いの徹底をスムーズに行うことができています。換気については、室温を調節しながら、対角線の窓を常時開けるようにし、定期的に空気の入替えをしている。消毒については、スクールサポーターが手すりやスイッチなどよく触れる箇所を毎日消毒している。トイレの清掃は教員が継続して行っている。

密を避けることが最大の課題となっている。学校行事において、密を避けるために様々な対策を行ってきた。運動会で保護者の入場を各家庭1名のみとした。途中で交代することはできるようにした。また、入退場門を設けずに、児童席から直接入退場することとした。スムーズに進行し、児童が席に座って他学年の競技・演技を見ることができたというメリットもあった。

修学旅行は、健康観察を細やかにを行い、体調を大きく崩す児童が出なくて、無事に実施することができた。GO TOトラベルの対象となり予算的には助かった面もあった。林間学校は、当初予定していた宿泊施設が臨時休業となり、急遽行先を変更したが、無事実施することができた。

入学説明会は、広い体育館で行い、兄弟姉妹関係が在籍している場合は、出席せず、書類をお渡しするという対応でお願いした。研究発表会は、オンラインを活用し、iPadで視聴していただく形とした。初めての試みで、映像や音響などで不具合もあったが、新たなチャレンジができたと感じている。2学期の参観も学年ごとに日時をずらしているとはいえ、教室が密になるので、オンラインで参観していただく予定にしている。

卒業式は、保護者のみの参加で、各家庭2名までと限定して行う予定にしている。歌は歌わず、国歌や校歌は静聴する。感染症拡大の状況が緩やかになれば歌を歌うことが許されるかも

しれない。

朝会は、オンライン会議アプリ「ZOOM」を使って、行っている。児童会が主体となって取り組んでおり、委員会活動などの報告を行うこともある。その取り組みについて、教育委員会指導主事が、紹介動画をを作成してくれた。さらに、文部科学省担当者の目に留まり、本校の取り組みを文部科学省のウェブサイト「StuDX Style」で紹介していただけることになった。一生懸命取り組んでいる様子に感動したというコメントをいただいている。

GIGA スクール構想は当初 2, 3 年かけて整備を進める計画であったが、新型コロナウイルスによる影響の関係で、急速に整備されることになった。摂津市は府下でもトップレベルのスピードで整備された。65型インチの大画面モニターも各教室に設置され、ICT 機器の充実が図られている。冬休み期間中には 3 年生から 6 年生の児童は家庭に iPad を持ち帰り、インターネットにつながるかを確認、簡単な課題に取り組んだ。Wi-Fi 環境がない家庭にはモバイルルーターを貸し出し、全家庭がインターネットを利用することができるようにしている。

さらに、全学年でタブレットを活用した授業を展開している。教職員が研修を重ね、意見を交流したり、まとめたりするなどの授業を行っている。万が一、分散登校や臨時休校になったときのオンライン授業にも使えるような準備を進めている。長期入院している児童に対して、病室からオンラインでつなぎ、まるで教室にいるかのように授業を受け、友だちと交流することもできている。GIGA スクール構想の導入により、大きく授業のスタイルが変わろうとして中、今はチャレンジしながら、何ができるのかを模索している段階である。先に枠組みを決めるというよりは、やりながらその形を形成している。トライ&エラーの精神で日々修正を加えながら、できることから積極的に取り組んでいく。

学校経営計画については、「チーム味舌」を築いていくことを念頭にこれまで学校経営を行ってきた。働き方改革を進め、教員が児童と向き合える時間を確保していく。教育活動支援員や学校読書推進サポーター、家庭教育相談員、スクールサポーターなどの市費職員を多く配置していただいております、有効に活用していきたい。

オンライン朝会が成功しているのは、児童が学校の思いに答えてくれているからだ。このように教員と児童がチームとなって取り組んでいる成果だと言える。また、地域の方も、毎朝登校する児童にあいさつしていただき、安全を守っていただくなど、様々な場面でサポートしていただき、チームの一員であると考えている。さらに、タブレットを家庭に持って帰って一緒に試してもらったといことを考えれば、保護者もチームの一員。チームの輪を広げていき、「ドリームチーム味舌」を作り上げていきたい。教育委員会からは、机上で考えたことを、学校現場で使ってくれていると言っている。まさに、共同研究を進めているように感じる。2 人 3 脚で進めてきた教育委員会もドリームチームの一員であると言えるだろう。

以上が学校の報告です。委員の皆様から、ご意見・ご感想をいただきたい。

(委員) 地域と学校の結びつきについて、セーフティパトロールなどがしづらい状況であり、学校とタイアップして何ができるか考えていたが、正直厳しい。いいプランが思いつかない。地域の方が校区を案内するなど味舌小校区ではこれまで行ってきたが、今後もできるのだろうか。何かいい取り組みはないだろうか。例えば、校区の様子を撮影して、動画で紹介するなどはどうだろうか。農業体験などは実際にやらないとわからないこともある。

コロナ禍を逆手にとって、できることもあるだろう。また、これまで取り組んできたことを見直す

ことも必要だろう。こうやって淘汰されていったものが、本当に必要な教育活動なのだと思う。

(委員) 臨時休業により、年間の授業時数が少なくなっている中で、カリキュラムを消化しなくてはならないことで忙しかったのではないだろうか。地域からお手伝いできることもあったかもしれないが、そう考えると余分な時間となってしまうのではないかと勝手に考えていた部分はある。

今の状況を考えれば、授業のあり方として、教え込む授業になってしまう傾向になりがちだろう。しかし、その中で、児童同士が意見を発表できるような授業をどうしたらつくれるだろうか。学び合う時間をいかに確保するか。教え込みばかりにならないような授業をつくる必要がある

先生との信頼関係を築くことが小学生のうちには特に必要である。日本教育新聞の記事に掲載されていたことだが、精神疾患の保護者をもつ児童のうち 4 割が小学校時代に教員との間にイヤな思いをしたことがあると答えている。学校評価アンケートの中で、自分たちが秘密にしたいことを先生に相談するかどうかの問いに対して、肯定的回答は低かった。先生に話すと他の人に伝わってしまうと思われるのかもしれない。先生でなくてはならないことではなく、誰かに相談できればいいのだが、幼い頃は先生とのつながりは強いはず。そのようなことに気を配っていただければいいと思う。

(校長) 臨時休業が明けてから、授業時数の確保をどのようにするのか対応が求められた。夏休み・冬休みの短縮、短縮授業の削減など様々な対応を講じた。児童にストレスがかかるなど悪影響も出ている。

先生に相談をすることが少ないのは確かに大きな課題である。特に若い教員は、児童理解が十分ではなく、児童の気持ちに寄り添えていない部分もあるかもしれない。児童が安心して学校生活を送ることができるような環境を作っていく必要がある。本校では教室環境のユニバーサルデザインについて以前より取り組んできたが、今年度は人的環境のユニバーサルデザインについて研究をしている。これは、若い教員からの提案で始まったことでうれしく思っている。児童には、教員の態度や目線など言葉ではない要素も大きく影響を与えている。その要素に教員が気を配り、児童に接することで教室が安心できる居場所となる。人的環境のユニバーサルデザインについて、来年度も引き続き取組みを進めていく。

(委員) 一人 1 台のタブレットの整備はすごい。今自分が働いている職場もタブレットでほとんどのことができるようになってきている。タブレットを活用して、障害を持っている児童に対して、バリアを低くし、ともに学べる環境をつくることができるのではないかと。合理的配慮についてタブレットを使うことで可能になると思う。

働き方改革については以前より話題に挙げているが、まだ教員が遅くまで残って仕事をしている現状がある。具体的にどのような方針や方策を考えているか。教員の時間的ゆとりを生むことで児童への接し方にも効果が出ると思う。残業することが当たり前と思っている部分もあるのか。管理職が教職員の勤務体制を整えて、心身の健康を保持する必要がある。

現在、リモート公民館が流行っている。ゲームをしている画面を映す、地域の高齢の方の得意なことを映す、など何気ない日常を共有できるそうだ。先生の自己紹介などを動画で発信すると親近感が湧いてくるのではないかと。

新型コロナのワクチン接種について、教職員はどのような取り扱いになっているのか。ワクチンを接種するかしないかの選択の余地はあるのか。

- (委員) 教員は優先の枠に入っていない。医療関係者が第一優先となっている。
- (委員) 選択だと保護者から「なぜ受けていないのか」と問われることがないのか。ワクチンを接種していないことに抵抗のある人もいるかもしれない。
- (校長) 働き方改革については、数字の上では、残業時間が1カ月当たり45時間をこえないことが法的に決められている。しかし、若い教員は、特に授業準備に時間がかかり、遅くまで働いていることがある。スクールサポーターの配置で、プリントの印刷、消毒などの作業がずいぶん助かっている。来年度はスクールサポーターが各校2人配置となり、時間確保にとってありがたい。
- (委員) 学校中を毎日消毒しているのか。
- (校長) 人がふれることが多い箇所は、毎日消毒をしている。特に手すりやスイッチ、ドアノブなどは念入りに消毒をしている。
仕事量を平等に配分すべきという考えもあるが、人によって生活等の状況が異なるので、お互いに配慮をしながら助け合っている。来年度は校務分掌を改革し、スムーズに学校運営を行うことができる組織づくりを行う。
- (委員) コロナ禍で特別な活動ができず、これまでたくさん学校に関わっていたんだなと痛感した。行事がほとんどなくなって、児童と関わってきたことをよく思い出す。児童と一緒に校区を巡っていたこともある。民生児童委員として登校時刻に立ち、毎朝あいさつをしている。すると、児童の成長を感じる。以前は1年生が泣いて学校に行っていたが、今では友だちと一緒に元気に登校している。子どもたちとつながっていることを感じられるのでうれしい。マスクもきちんとルールを守って付けている。
GIGA スクール構想について、子どもはすぐにできるようになるが、私たちには難しい。オンラインで映し出されたものは、児童はきちんと音声がかかっているのか。私が実際に体験してみたら、ハウリングして、音声がうまく聞こえないことがあった。朝会などでは、聞くだけではなく、児童が音声を出すことはあるのか。機械操作が難しいが、児童の習得がとても速いことに感激した。
- (校長) マイクは基本ミュートにして聞いている。発表する場合だけ、マイクをONにしている。朝会では児童会がいくつかの教室にインタビューしに行き、感想を言うという取り組みもした。
- (委員) 今は様々な会議などもオンラインを使っているのだから、どんどん活用が広がっていくと思う。
- (委員) 近所の方と「義務教育の児童生徒はみんなiPadを持っている」と話をしていて、急激な進歩に驚いている。味舌小だよりを毎月いただき、ありがたい。2月号よりメールでのお知らせとなったため対応できるか心配であったが、紙媒体でいただけたので助かった。
- (校長) ペーパーレス化したのは、紙資源を削減をすることや保護者からのアンケートでご意見をいただいたので、反映した。

(委員) 各種会議でも同じ話題が上がる。紙の資料を大量に印刷することで、資源の無駄になっているのではないかという意見がある。すべてがデジタル化になるというわけではないだろうが、使い分けることが大切。今はその変遷の過渡期だろう。

(大南) コロナ差別が問題視されているが、学校でも気を付けなくてはならない。感染者やその家族が偏見や差別を受ける事態があってはならない。

児童はたくさんの制限がかかった中での生活を強いられ、エネルギーを発散できない状況にある。また、学習についても、授業時数が少なくなり、学習進度についていくのがしんどくなることもあり、熱が出るなど体調が悪ければ、念のために欠席しなくてはならず、さらに時間が削られることになる。その影響からか、児童の問題行動数は例年より多い。しかし、そのほとんどは大きな問題へと発展せず、解決している。そのことについて、摂津市教育委員会指導主事が、興味を持ち、学校の様子を視察しに来られた。児童は、愛情を持って接してくれれば、その気持ちを感じ、穏やかに過ごせるのだろう。地域の方々も同じように愛情を持って接していただけていることが児童の安心につながっている。

私は、「あい」がキーワードだと思っている。「支え合い」「学び合い」「高め合い」ができる関係を築き、愛情を持って接することが大切です。そして、i(あい)Pad を効果的に活用していくことも大切だ。

(教頭) 私たち学校は地域の皆様に支えられている。地域の中に学校があって、ともに子どもの成長を願っている。昨年度まで一緒に行っていたいただいた行事もすっかりできなくなってしまった。だからこそ地域の方がいかに支えてくださっていたのが身に染みて感じる。あたりまえと思ったことがなくなり、その大切さを痛感している。また、学校は児童がいないと成り立たない。学校という舞台では、主役は児童である。

コロナ禍で教育活動も淘汰されていくという話があったが、地域の方とともに行ってきた行事はむしろ大切に続けていくべきだと考える。ICT が進歩し、効率的であることが良いという風潮もあるが、教育は、愛情、つながり、いたわりなどの心を忘れてはならない。

学校評価アンケートにおいて教職員の回答率が100%であったことは大変喜ばしいことである。教員としての自覚をもち、意識が向上したと捉えている。アンケート結果も項目により昨年度より上昇した。やりがいをもって仕事ができている。

働き方改革を話題にするときに、早く帰る、行事を減らすなどが取り上げられがちだが、教育に必要な要素を削っていくことが働き方改革ではない。児童のためにできることは何かを模索し、日々進化していかなくてはならない。

来年度も引き続き、味舌小学校の発展のための、お力添えをいただきますようお願いしたい。

(校長) 今年度、本校教員が悩みを抱え、メンタルが原因で長期に休むことが今のところ一人もいない。職員室内が明るく、お互いに意見を交流し、時には悩みを相談できる関係が醸成されているからだろうと思う。来年度も気を引き締めて、児童も教員も元気な学校をつくっていく。

学校協議会の皆様には、1年間大変お世話になり、心より感謝申し上げます。